

研究主題 「対話を重視した道徳指導の工夫

－互いを尊重する豊かな話合い活動を通して－

東京都教職員研修センター研修部教育開発課
荒川区立第一中学校 教諭 佐瀬 順一

I 研究のねらい

中学校学習指導要領解説道徳編（平成 20 年 8 月）には、「次代を担う生徒自らが学ぶ意志や意欲をもち、未来の夢や目標を抱き、自らを律しつつ、自己責任を果たし、自分の利益だけでなく社会や公共のために何をなし得るかを大切に考える豊かな心をはぐくむことが重要である。その視点からも、道徳教育の充実は重要な課題である」と述べられている。また、子供たちの豊かな人間性をはぐくむために「学校は、子どもにとって伸び伸びと過ごせる楽しい場であり、安心して自分の力を発揮できるような場であることが求められる」「そのための基盤として、子どもたちの望ましい人間関係や教師との信頼関係がはぐくまれていくことが重要である」と指摘している。

自分に自信をもち、豊かな人間性をはぐくむためには、友達や教師をはじめ、様々な考えをもつ人々と豊かなコミュニケーションを築くことが必要である。

これまでに、学校では様々な話合い活動が行われてきたが、コミュニケーション能力の不足については指摘されることが少なくない。生徒指導上の諸問題に関する調査研究会報告書（平成 17 年 6 月文部科学省）では、生徒の問題行動が発生する背景として地域社会におけるコミュニケーション能力の低下を挙げ、「保護者同士が地域活動を通じてコミュニケーション能力を高める機会や場が不十分な状態にある」「児童生徒においても人間関係づくりを切磋琢磨する機会が少ない」と述べている。実際に、中学生と接していると、特に問題行動を起こさない生徒でも、些細なことが原因で簡単に友人関係が切れてしまう等、良好な人間関係づくりを苦手とする生徒が増えていると感じる。

本研究では、こうした背景を踏まえ、道徳の時間に「対話」を重視した話合い活動を行うことを通して、建設的に話し合う楽しさを学び、道徳的な実践力の向上を目指した授業改善の工夫を図ることを目的とする。

II 研究の内容と方法

1 研究の仮説

生徒に「対話」を重視した話合い活動を行わせると、意見交換が活発になるとともに自分や友達の考えを大切にしようとする気持ちがはぐくまれ、道徳的実践力を高めることができる。

2 基礎研究

(1) これから求められる中学校の道徳教育

幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（平成 20 年 1 月「中央教育審議会答申」）では「自分に自信がもてず、将来や人間関係に不安を感じている」という生徒の現状から、「他者、社会、自然、環境とのかかわりの中で、これらと共に生きる自分に自信をもたせる」ことが重要であるとし、「言語活動の充実」と「道徳教育の充実」を関連付けて述べている。

これを受けて、新中学校学習指導要領「第 3 章 道徳」の「第 3 指導計画の作成と内容の

取扱い」の「3 道徳の時間における指導の配慮事項」では「(4)自分の考えを基に、書いたり討論したりするなどの表現する機会を充実し、自分とは異なる考えに接する中で、自分の考えを深め、自らの成長を実感できるよう工夫すること」という事項が加えられた。本研究では、こうした工夫を具体化するため、道徳の時間において、「対話」による他者との話し合いを行うことにより、生徒が自分自身を振り返り、考えを深め、自らの成長を実感できるようになることを検証する。

(2) 「対話」の一般的な概念

一般的に対話は、「個人と個人が向かい合って交互に話のやり取りをすること。話し合うことの多くの形態の中で対話は最も基本的な形である」と説明される。対話の形態（種類）としては、談話、あいさつ、相談、対談、問答、インタビュー、応対、交渉等がある。これらは、国語科における「話すこと・聞くこと」の言語活動で取り扱われることが多い。

(3) 本研究における「対話」

本研究では、「対話」を「考え方の異なる他者と新たな情報交換をするために、相手の意見を柔軟な姿勢で受容する話し合い」と定義する。

「対話」というと、互いが理解を深めるための一対一の話し合いというイメージがあるが、学級全体や小グループ等の集団でも、生徒一人一人が友達の意見を聞き、自らを成長させようとして話し合いに参加するとき、「対話」は成立すると考える。互いの考えの違いを踏まえて話し合うとき、「対話」のもつ機能が有効に働くと考える。

(4) 「対話」を重視した道徳の時間

本研究における「対話」は、図1のような構造をもつ。異なる意見（A、B、C）をもつ生徒同士が話し合い、対立点について自らの意見を主張し合う。結果として、新たな考え（合意点）が生まれる。それと同時に、当初の意見は、対話者それぞれの気付きによる内面的な成長とともに、より高次の意見（A'、B'、C'）に変化すると考える。

「対話」を重視した道徳の授業を行うことにより、道徳の時間は生徒にとって、今までの自分の価値観が変わる機会となる。それに伴い、道徳の時間は魅力ある時間となり、生徒自身が、自ら考え道徳的価値の自覚を深める時間へと変化していくと考える。

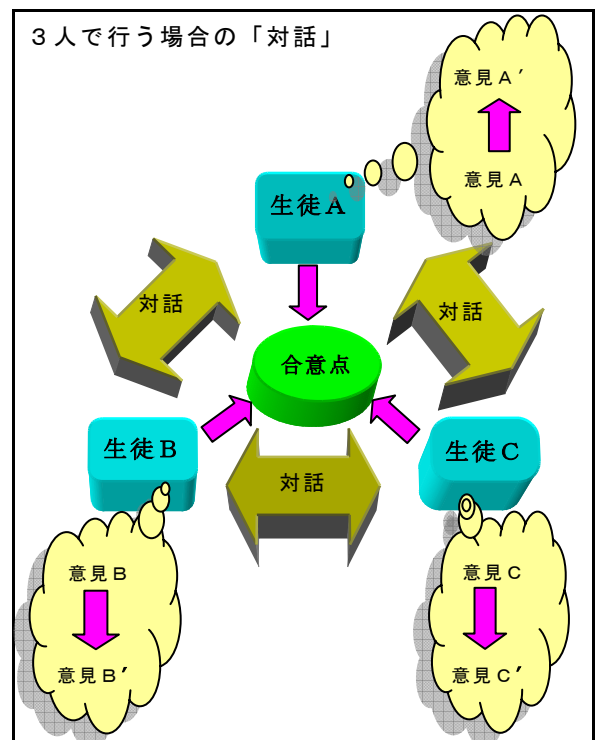


図1 本研究における「対話」の構造

3 実践研究

研究仮説を検証するために、都内公立中学校において検証授業を行った。

(1) 対象：第1学年生徒、1組36名、2組36名、3組34名。

(2) 主題名：「いろいろなものの見方」 内容項目2－(5)「他に学ぶ心」

(3) 資料名：「見えないぼくの明るい人生」内田勝久（主婦の友社）一部改作（著者許諾済）

(4) 対話を重視した授業展開の工夫

本授業では、読み物資料を通して著者の生き方や考え方に学ぶと同時に、授業で行う「対話」により友達の見解や考え方にも学ぶことをねらいとしている。

表1 検証授業における「対話」指導

主な学習活動	○発問、予想される生徒の反応等	指導上の留意点
対話を行う ・ワークシートに記入した意見について小グループ内の友達と話し合う。 ・友達の意見を聞いて自分の意見が変わったらワークシートに記録する。 ・小グループごとに発表する。	○「なにより運がよかったのは、弱視とはいえ23才まで見えていたことだ」という内田さんの考えについてどう思いますか。グループで話し合ってください。 「対話」による話し合いのルール ・一人ずつ自分の意見と、その理由を発表する。 ・質疑応答を行う。 ・グループ全員が発表する。 ・いろいろな意見が出されることを大切にする。 ・小グループで意見をまとめない。 <意見> ・物事をプラスにとらえていると思う。 <理由> ・「23歳で見えなくなった」と書いていないから。	・話し合いができていないか机間指導をして確認し、随時、助言する。(話し合い8分、発表6分) ・出された意見はまとめずに、そのまま記録するように指示する。

表1に検証授業指導案の「対話」による話し合いの部分を示した。まず、自分の考えを基に小グループ内で意見発表を行い、友達の質問に答えるという活動を全員で続ける。その後、各小グループから学級全体へ発表された意見を基に自己の考えを深める活動を計画した。

「対話」を行うために重要なのはテクニックを覚えることではない。「相手の意見を聞くことで、自分の考えをよりよく変えていこう」という態度を身に付けることである。その大切さについては、授業前に十分な説明を行った。

(5) 「対話」による話し合いの評価

本授業における生徒の変容について、ワークシートの記述内容と授業中の「対話」の様子から形成的評価を行った。

Ⅲ 研究の結果と考察

1 検証授業の結果と考察

(1) 「対話」の満足度

検証授業後、「今日の話し合いの満足度はどうでしたか」という問いに対して、85%の生徒が、十分満足、ほぼ満足と回答し、あまり満足でない

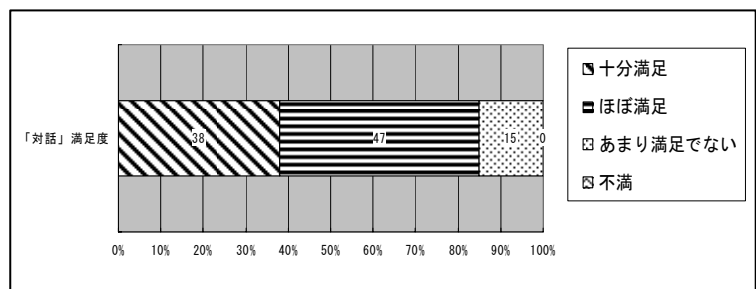


図2 「対話」の満足度

と回答した生徒を大きく上回った。(図2) その理由を自由記述方式で聞いたところ、多くの生徒が「自分と違う意見を聞くことができたから」と回答していた。授業を通して、生徒たちは友達の意見を大切にする「対話」のよさについて気付いたと考えられる。

(2) 「意見を聞くこと」と「意見を言うこと」の自己評価の比較

「友達の意見を聞くことができましたか」「自分の意見を言うことができましたか」という問いに対しては、「意見を聞くこと」に、満足、ほぼ満足と答えた生徒の割合が96%に達したの

に対して、「意見を言うこと」に、満足、ほぼ満足と答えた生徒は80%にとどまった。(図3) これは、授業を行った3学級に、共通に見られた傾向である。

今後、「対話」による話し合いを繰り返し行うことにより、安心して意見が言える環境を醸成していくことが大切である

と考える。自分の考えを意見として発表することにより、その考えはより確かなものになる。意見が十分言えるようになれば、「対話」の満足度も、より高くなることが予想される。さらに、発表した意見を友達に認められることは、道徳的实践意欲の向上につながると考えられる。

(3) 「対話」における意見の変容

授業で用いたワークシートには、一つの発問に対して、最初に自分の考えを記入する欄と、「対話」を行った後、意見が変容した場合にそれを記入する欄をそれぞれ設けた。検証授業において、変容した意見を記入した生徒は、全体の17%であった。道徳の時間に「対話」による話し合いを、繰り返し体験することによって、意見が変容する生徒は増加すると考えられる。「対話」は意見の変容を目的に行うものではないが、意見の変容を実感することは、生徒の内面の成長にかかわる点で重要である

2 「対話」の有効性

表2に示したように、一度の体験でも「対話」により、友達の意見を聞き、自分の考えを高めていくことの大切さについて理解した生徒がいることが分かる。特に、最初の意見を書いた生徒は、「何で(友達は)意見が違うのか不思議だ」「でも、私は絶対意見を変えない」と言いながらも、友達と真剣に意見交換をし、

「対話」に積極的に参加している様子が印象的であった。「対話」を取り入れた道徳の授業を行うことは、本音で話せ、信頼できる人間関係を結べるようになるための大きな契機になると考える。

これからの社会に必要とされるリーダーとは、「一人で、あらゆる種類の仕事をこなすことができる万能型リーダー」ではなく、「自分に足りない資質や能力を客観的に理解し、その足りない部分を補ってくれる他者と、良好な人間関係を結ぶ力をもつ協調型リーダー」と言われる。その意味でも、「対話」を用いて他者と良好な人間関係を結ぶ力を身に付けることは、これからの社会を生きる生徒にとって大切である

IV 今後の課題

道徳の授業の中で「対話」による話し合いを繰り返し行ったとき、生徒の変容から検証できる「対話」の有効性について、さらに研究を進めていく。

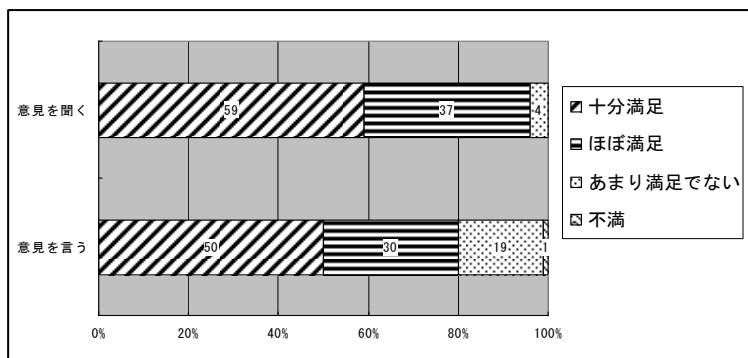


図3 意見を聞くこと、意見を言うことの自己評価

表2 授業を振り返っての感想

<p>「これからの生活に生かしていきたいことは何ですか。」に対する回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人の意見を聞いたら自分の頑固な意見も変わる。みんな生き方について考えが違っていた。 ・他人の話聞き、自分の意見と合わせる。 ・人との出会いを大事にしたい。 ・これからはいろんな人に話を聞きたいと思った。 ・一人一人とちゃんと向き合い、相手の気持ちを分かるようにしていきたい。
--

研究主題 「対話を重視した道徳指導の工夫 －互いを尊重する豊かな話し合い活動を通して－

東京都教職員研修センター研修部教育開発課
荒川区立第一中学校 教諭 佐瀬 順一

【補助資料1】「対話」を重視した道徳学習指導案

- 1 主題名 「いろいろなものの見方」 内容項目 2－(5) 他に学ぶ心
- 2 資料名 「見えないぼくの明るい人生」内田勝久著（主婦の友社）一部改作（著者許諾済）
- 3 「対話」を重視した話し合いの指導について
(1) 「対話」による話し合いの留意点

- ①相手の意見を聞くことで、自分の意見をよりよく変えていこうという態度で話し合いに参加する。
- ②暗黙の了解（言わなくても分かる）はない前提で、考えのすべてを言葉で説明する。
- ③他人の発言は途中でさえぎらないで、最後まできちんと聞く。
- ④意見には必ず、理由や根拠を挙げて説明する。
- ⑤意見は発表された段階で全員の共有物であることを理解する。たとえ自分の意見が否定されても、個人が否定されているのではないから感情的になってはいけない。
- ⑥個人的な経験と、意見の良い悪いと結び付ける発言をしないように注意する。
- ⑦断定する言い方になる「絶対」という言葉を使わない。
- ⑧どのような意見であっても「間違い」と決めつけない。
- ⑨反論は意見そのものに対してではなく、意見に付けられた理由に対して行う。
- ⑩話し合いが終わったら議論の内容についての話はしない。

上記の観点によって、「対話」による話し合いが行われているか、教師は机間指導を行いながら確認し、適切な助言を行う。

(2) 小グループにおける「対話」による話し合いのルール

- ①班長を司会者とし、その他の人が、記録係、時計係を担当する。
 - ②一人ずつ自分の意見と理由を発表する。
 - ③質問や意見があれば出す。
- ※意見発表と質問は「対話」による話し合いの留意点を守って行う。
※②～③を繰り返しグループ全員が発表する。
※1人の発表と質問は1分を目安にする。
※記録係はワークシートの裏面に発表された意見を記録する。
- ④指示されたら班長が記録された内容を発表する。

(3) 資料について

資料として引用した「見えないぼくの明るい人生」の中で、著者で全盲の視覚障害者である内田勝久氏は自己の半生を振り返りながら「目が見えないことは決して不幸ではない」こと、さらに「目が見えなくて幸せなことがある」という考えを、様々な体験を交えて語っている。

目が見えることが当たり前という生活を送ってきた生徒たちにとって、目が見えなくなることは人生を揺るがす一大事である。「目が見えなくても幸せ」と語る内田氏の考えに触れることによって、生徒たちは、今までの価値観の転換を迫られる。その経験を通して、世の中には、いろいろなものの見方や考え方の人がいることを実感できるようになると考える。

また、授業の導入と終末に生徒に見せるビデオ資料は、授業者が撮影編集を行なった。全盲の内田氏が伴走者とともに疾走する姿、中学生に語りかけるメッセージは生徒に強い印象を与えることができると考える。

4 本時の展開

(1) ねらい

世の中には、いろいろなものの見方や考え方の人がいることを知り、他の人の生き方に学ぼうとする心情を養う。

(2) 展開

	主な学習活動	○発問・予想される生徒の反応等	指導上の留意点
導入 (5分)	1 ビデオを見る。 	これから、ある人が走っている映像を流すのでテレビを見てください。 どんなことに気づきましたか？ 今日は、今のビデオで走っていた内田勝久さんの書いた本を使って、内田さんの生き方や考え方について、みんなで話し合いながら考えていきたいと思います。	・内田氏の100m走のビデオを再生する。(2分) ・内田氏の写真と本を提示する。 ・今日の学習内容について知らせる。 ・「対話」について説明をする。(3分)
展開 (35分)	2 資料1を読む。 3 資料に関する問いについて、自分の意見と理由(根拠になる本文の記述でもよい)をワークシートに記入する。 4 意見と理由を個人で発表する。 5 記入した意見について、小グループ内の友達と話し合う。 6 小グループごとに発表する。 7 資料2を読んで考える。 ・記入した意見について、小グループの友達と話し合う。 8 小グループごとに発表する。	○「内田さんの目が見えているかどうか、保護者があまり気にしていなかった」とありますが、自分が内田さんの保護者の立場だったらどう考えますか。理由も付けてワークシートに書きなさい。 <意見> ・心配すると思う。 ・心配しないと思う。 <理由> ・目の病気が遺伝したらかわいそうだから。 ・内田さんの保護者は目が見えなくても幸せだったから。 ○「なにより運がよかったのは、弱視とはいえ23才まで見えていたことだ」という内田さんの考えについてどう思いますか。グループで話し合ってください。 「対話」による話し合いのルールに沿って進める。 <意見> ・物事をプラスにとらえていると思う。 <理由> ・「23歳で見えなくなった」と書いていないから。 ◎資料を読んで、内田さんの生き方や考え方について、思ったことについてグループで話し合ってください。 「対話」による話し合いのルールに沿って進める。	・資料1を教師が読む。(2分) ・意見と理由を併記するように注意する。 ・本文から理由を探してもよいことを伝える。 (5分) ・話し合いができていくか机間指導をして確認し、随時、声を掛ける。 (話し合い8分、発表6分) ・資料2を教師が読む。(2分) ・資料1、資料2を合わせて意見を書いてよいことを伝える。(話し合い8分、発表6分)

終末 (10分)	9 内田さんからのビデオメッセージを視聴する。	内田さんから皆さんへのメッセージがありますので、テレビを見てください。	・メッセージを再生する。 (3分)
	10 授業を通して感じたことを書く。	内田さんからのメッセージ 中学生の皆さんこんにちは内田勝久です。今日は100mのレースに出ました。12秒9で2着でした。すごく満足できる結果です。勝っても負けても、障害のあるなしにかかわらず、いろいろな人とレースができることは楽しいです。私が所属しているチームには、私以外にも、障害のある人、ない人、様々な選手がいます。中には日本選手権に出ている強い選手もいます。たくさんの人と知り合って、いろいろな刺激を受けながらやっています。とても楽しいです。皆さんも、たくさんの人と知り合うことが人生の財産だと思います。これからも頑張りますので応援をよろしくお願いします。	
		○ 授業を通して感じたことをワークシートに書いてください。	

(3) 評価

- ・世の中には、いろいろなものの見方や考え方の人がいることを知り、他の人の生き方に学ぼうとする心情を養うことができたか。
- ・「対話」による話し合いに積極的に参加することができたか。

道徳ワークシート

1年組 班氏名 _____

「見えないぼくの明るい人生」を読んで、内田勝久さんの生き方に学ぼう！
 ～友達との「対話」による話し合いで理解を深めながら～

◎「内田さんの目が見えていかどうか~~が~~あまり気にしてなかった」とあります。自分が内田さんの面観の立場だったらどう考えますか？理由も付けて教えてください。

最初の意見 (全員が記入する)
 意見 _____
 理由 _____

↓

友達の意見を聞いた後 (意見が変わった場合に記入する)
 意見 _____
 理由 _____

◎「なにより運がよかったのは、弱視とはいえ23才まで見えていたことだ」という内田さんの考えについてどう思いますか？グループで話し合おう！

最初の意見 (全員が記入する)
 意見 _____
 理由 _____

↓

話し合い後 (意見が変わった場合に記入する)
 意見 _____
 理由 _____

◎内田さんの生き方や考え方について思ったことや感じたこと。グループで話し合おう！

最初の意見 (全員が記入する)
 意見 _____
 理由 _____

↓


話し合い後 (意見が変わった場合に記入する)
 意見 _____
 理由 _____

↓

今日の内容を振り返って
 ◎今日の授業で学んだことは何ですか？

 ◎今日の授業で何を感銘しましたか？

 ◎これからの生活に生かしていきたいことは何ですか？



【補助資料2】生徒が「対話」による意見の変容を記録するためのワークシート

【補助資料3】授業後の生徒の感想

これからの生活に生かしていきたいこと何ですか？※()内の数字は同様の回答者数を示している。

内田さんの生き方について

- ・何があっても自分が不幸だと決め付けずにいきたい。
- ・自分の正しいと思ったことを続けていきたいと思った。
- ・人生を楽しく生きようと思った。(2)
- ・目が見えても見えなくても明るい生活にしていきたい。
- ・自分はそんな立派な考えや生き方はできないかもしれないけど、いつも心の片隅に内田さんの生き方を置いて生きていこうと思った。
- ・自分も内田さんのように強気で生きる。
- ・この先いやなことがあったら内田さんを思い出したい。
- ・内田さんのように前向きに生活したい。(10)

「対話」について

- ・対話も少し混ぜて会話したい。
- ・対話をいろいろなところで使いたい。
- ・どこか遠くへ行ったときや知らない人と出会ったときはかかわっていこうと思う。
- ・人の意見も聞いてAとB(個人の違う意見)からC(新たな合意点)が出るような話をしていきたい。人の意見に耳を傾けることも大切だと思った。
- ・人の意見を聞いたら自分の頑固な意見も変わり、人それぞれ、生き方についての考えが違うことが分かった。
- ・他人の話聞き、自分の意見と合わせる。
- ・これからはいろんな人に話を聞きたいと思った。(2)
- ・一人一人とちゃんと向き合い、相手の気持ちを分かるようにしていきたい。
- ・人とちゃんと向き合って話す。

障害のある人への接し方について

- ・障害者の方々に出会ったらなるべくサポートする。(2)
- ・障害のある人への偏見をやめたいと思った。(4)
- ・目が見えない人とも仲良くしていきたい。(2)
- ・障害のある人や困っている人がいたら助けたい。(14)
- ・困っている人がいたら協力して生活していきたい。
- ・目が見えない人に親切にしていきたい。
- ・目が見えない人に、今よりも気をつかって生活しようと思った。

その他

- ・目が見えることを幸せだと思い、楽しく生活する。(2)
- ・小さなことでよくよしない。
- ・目が見えているから幸せだと思うのではなく、目が見えるからこそいろいろなことを学びたいと思った。
- ・自分の目を大切にしていきたい、いろいろな面で便利に使いたい。(2)
- ・なるべく人に優しくしたい。
- ・何でもあきらめない。
- ・人との出会いを大事にしたい。
- ・ちょっとしたことでぐらいくじけるのはいけないことだと思った。
- ・何事も全力で取り組む。
- ・助け合って生きていきたい。
- ・いろいろな人を大切にしたい。
- ・いろいろなことに挑戦したい。(2)
- ・弱気にならず生活していきたい。
- ・自分もがんばろうと思う。
- ・どんなことがあっても明るく人生が送れるようにしたい。(2)